

安心の設計

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com
ファクス03・3217・9957

認知症 いろいろ

①

社会の高齢化にともない、認知症の人が増えています。今や、誰にとっても、自分や家族がなりうる身近なものです。新連載「認知症いろいろ」では、認知症に関する基本的な知識を学ぶほか、支援サービスや地域の見守りといった取り組みを紹介しします。

「認知症とは、何らかの原因で脳細胞が障害を受け、認知機能が低下して、生活に支障をきたしている状態のことを指します」
東京都健康長寿医療センターの「もの忘れ外来」で診療にあたる古田光医師が説明してくれました。
認知症の症状は、大きく「中核症状」と「行動・心理症状」の二つに分けられます。
中核症状は、脳細胞が障害を受けることで直接的に起こ

認知症の人の主な症状

記憶障害 物事を覚えられなくなったり、思い出せなくなったりする	理解・判断力の障害 考えるスピードが遅くなる。駅の自動改札機やATMでまごつくことも
実行機能障害 複数の料理を並行して作るなど、計画や段取りを立てて行動できないことも	見当識障害 時間や季節の感覚が薄れ、場所や人との関係など、状況把握ができない

中核症状

行動・心理症状(例)

- ▶ 「モノを取られた」など事実でないことを思い込む
- ▶ 入浴を嫌がったり、排せつ物をもてあそんだりといった不衛生な行為
- ▶ 歩き回って、帰り道がわからなくなる
- ▶ 気分が落ち込み、無気力になる



「おや」と思ったら即受診

「おや」と思ったら即受診。認知症の初期段階では、段取りを立てて行動できなくなる「実行機能障害」や、時間や場所がわからなくなる「見当識障害」などもありま。基本的には症状が元に戻ることがなく、ゆっくり進行していきます。行動・心理症状は、「記憶障害があることで不安を感じ、暴力的になるまう」とい

「ものを取られたなど、事実と違うことを思い込む」など、表れ方は様々ですが、周囲の働きかけで緩和できることもあります。

「うつ病」や薬の副作用などにより、認知症ではないのに、似た症状が出ている場合もあります。「おや」と思ったら、すぐに受診することが大切です。(小沼聖実)

2025年に700万人

厚生労働省の研究班の推計では、65歳以上の認知症の人は、2012年に約462万人だった。高齢者のおよそ7人に1人が、認知症という計算になる。認知症の一步手前の状態とされる軽度認知障害(MCI)の人も約400万人にのぼる。

年齢別にみると、認知症の有病率は、60歳代後半では2%程度だが、70歳代後半では約10%、80歳代後半では約44%だった。高齢になるほど、認知症の人の割合は高まる。

25年には、認知症の高齢者は約700万人に増え、高齢者のおよそ5人に1人に達すると見込まれている。

* 次回は28日に掲載予定です。